

保護者・ご家族の皆様

社会福祉法人 聖母の家
理事長 植木 存



『愛すること、生きること』

『愛すること、生きること』は、誰でも自分の人生に深い関わりがあります。また、自分の人生に『であい、ふれあい、めぐりあい』という三つの『あい』は誰にでも経験があることです。いくつかそのお話をご紹介します。

《その1～ある青年…》 その青年は重症心身障害の状態にあり、ベッドの利用が多い人。体位変換やオムツ交換など人の助けを借りなければならない場面も多い。支援スタッフの女性の一人が、オムツ交換の場面を次のように情景描写的に語り記録していった。『いきんでいきんで腰を持ち上げようとする彼の姿に懸命に生きる意志の力を観た』と。『介助する人、介助される人』の一方通行の関係から、『共に、協力し合う』関係への脱皮と転換がスタッフの中に芽生えはじめた。その青年が暮らす施設に、そよかぜが爽やかに吹き抜けるようになった。

《その2～お風呂場で…》 その人はYさん、女性の利用者である。中々お風呂から出ようとしない。支援スタッフの女性のNさんは、どうして、なぜ一人残っているのだろう、と考えた。自分の手と足を湯船に入れて確かめてみた。そして体の芯まで温まっていないために湯船から出られなかったのだと実感し、お湯を足し温度を上げた。Yさんは、入浴を気持ちよく済ませた。寄り添うことで、声を出せない人の意思を確かめることができた。冷たい、温かいを相手から教わり、自ら知ること。『冷暖自知』は、生活の足元にあるのだと教わった。

《その3～Aくんとカセットレコーダー…》 カセットレコーダーのコードを失くして困っている人がいるとの相談を受けた。詳しく聞くと、実に7人にも及ぶ。コードのあり場所の見当はついているようだ。Aくんのダンスの引き出しにあるらしい。誰かを困らせるためにAくんが隠したのか?それとも…と問うと。Aくんは、カセットレコーダーが欲しいのだと思います…との応えが返ってきた。早速にお母様にご連絡して様子をお伝えすることにした。周りが困ると「問題行動」となることが多いが、もしかしたら問題行動の中に意思を伝えるサインが含まれていないかと受け止めるしなやかなセンスが必要だと教えられることになった。何かを訴える「問題提起行動」と受け止めた結果、Aくんの手元にカセットレコーダーが届くことになった。自分の意思を伝達する表現に限りがあるように見

裏面に続きます





える人、Aくんは言葉や声を上げて表現するのが苦手な人。単なる問題行動と捉えて『直し』の対象として問題視している間は、味方になれないのではないか。Aくんの『心の叫び』がわかった。

《その4～この子は あなたたちのために生まれてきた》友人から、表題の随想、自叙伝を贈られた。彼には姉がいる。ある日、姉の自宅に行った。姉は、幼い娘さんの顔にタオルをかけ、死ねるものなら一緒にと悲痛につぶやく声が彼の胸を突き刺した。カルテにあるCPの二文字を図書館で調べた。『脳性まひ』と知った。彼の頭から、姉と姪のことが離れることはない。

ある日、『姉と姪は何も悪いことなどちっともしていない。なのに、神様はどうして…』と先生に打ち明けた。『この子は、あなたたちのために生まれてきた』と先生は応えた。彼の大学進学志望が理工系から福祉系へと変わっていった。姉と姪への愛を、社会的な愛へと広げて、大学卒業後、彼は親たちに寄り添う相談関係の仕事に就いた。

この友人の自叙伝を涙して読んだ妻は、若い日に、同じ施設で共に働いた仲間でもある。親の苦勞と努力に共感することを、共に大事にして働いた妻の想いを彼に伝えた。彼、その人は、今もしなやかに一緒に考えあう心強い仲間です。

《その5～ある一冊の本…》作家で思索家でもある下村胡人は、自著「青年の思索のために」の中で、タゴールの詩に付け加えて、次の一文を私たちのために書き記してくれました。

※タゴールは、インドの人。アジアで初めてのノーベル賞受賞者です。

ハンマーで錠前は開かない。その錠前にあった鍵でなら開く(タゴール)
これに付け加えて言えば

『その鍵は売物には出ていない。

それを貸してくれる人もいない。

ほんとうにそれが入用なら、自分で作るほかないだろう。

なぜならそれが愛というものだから』



錠前は『人間の心』です。願いを込めて、誰もがそのように読みます。そして、錠前を開ける鍵を作ること、それが『愛』であると信じます。

人間は、

誰でも、『人から愛されたい、また、自らも人を愛したい』という思いや願いを持っています。『愛』はお互い様。年齢や性別などは、いっさい関係ありません。

愛は、人間の心を、しなやかに伸びやかに、ふくよかにしてくれます。

『愛すること、生きること』は…お互いの『宝物』です。

